



浄敬寺だより

じょうきょうじ



発行日 令和六年一月一日 第四二号



秋彼岸



年末法話会



秋彼岸



仏具お磨き



『歎異抄』を読む会
終了後の茶話会



有縁講



2023 年後半
記録写真



【法語】

ほうきょうぼう

法敬坊、九十まで存命そうろう。

ちようもん

「このとしまで聴聞もうしそうらえども、

ぞんじ

これまでと存知たることなし。

あきたりもなきことなり」と、

もうされそうろう。

『蓮如上人御一代記聞書』四七 真宗聖典八六四項

【意識・解説】

浄敬寺の本堂の再建当時から大変お世話になり、長らく総代を務めてくださった方々が昨年お浄土に還られ、通夜葬儀を通して、その生き様をお聞きする機会がありました。様々なエピソードから、その方々の穏やかさや懐の広さ、人生を退屈させない行動力の背景を聞かせていただきました。

右は、蓮如上人の御言葉をもとめた『蓮如上人御一代記聞書』の法語です。蓮如上人のお話をよく聞いておられた法敬坊は、当時としてはとても長寿で九十歳を過ぎてでもご存命でした。「この歳まで仏法を聴聞し続けてきたけれども、これで分かったと思っただけではない。また聞き飽きたということもない」と、仰っておられたそうです。命ある限り煩惱を離れることができないう人質を見抜き、その私たちに對して説かれた仏教には、人生を退屈させない力があるのでしょう。



☆巻頭法話☆

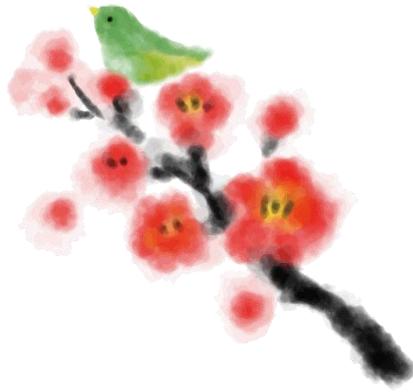
暮れにいただく年賀欠礼はがきも心なしかな年々増えて、かつ年齢も近くなってきたようにも感じられます。諸行無常が世の習いとはいえ、寂しさもついつつくる気持ちが出てきます。コロナのために4年間実施されなかった市役所OB会に出席しましたが、この間に他界された方も多く、黙祷の間に改めて生きていることの不思議さ、有難さも思わされたことでした。

新年早々暗い話で恐縮ですが、昨年十一月十三日に、私の大学時代からの友人（先輩ですが）が命終されました。七十三歳でした。一昨年十月二十八日、二十九日と近県のOBの方々4人で全国旅行支援を利用して宇奈月温泉に行ってきた記憶も新しい中、後に聞けば昨年4月頃から体調を崩し、検査の結果「骨髄異形症候群」という難病だったらしく、昨年十一月二日に最後の入院して間もない命終だったようです。学生時代、同じアパートで部屋こそ違え、貧乏生活を共にしてきた仲でした。帰郷後は旧吉川町、山直海「専徳寺」というそれは大きなお寺のご住職でしたが、柏崎に遊びに来ては共に盃を交わしました。寺の住職という役目柄、数々のご葬儀を執り行し、その都度悲しい思いを経験してきましたはいまし

たが、さすがにこの度の葬儀は心に大きな穴が開いた思いでした。御葬儀で拝読する御文に「白骨の御文」があります。もう何度となく拝読してきた御文ではありますが、果たしてその真髓をただけているのだろうかと考えさせられます。「朝には紅顔あつて夕べには白骨となれる身なり」五百年以上も昔から読まれてきたこの御文が、今現在の私たちの身上に何も変わることもなく起きているということは、これこそが私たちの身の事実であるということなのでしょう。一年間楽しく見てきた大河ドラマも先日終わりました。数々の歴史を色取ってきた英雄たちも今では語り話の中でしか知ることは出来ません。長い歴史の中のほんの一時を生きている私たちですが、その中で喜んだり、悩んだり、怒ったり、その時その時を懸命に生きています。いつかは終わると分かっている人生であっても、私たちは与えられた今を生きているのです。白骨の御文はただ人間のはかなさを憂うものではありません。御文の後半に「されば人間のはかなき事は、老少不定のさかいなれば、たれの人も早く後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏とふかくたのみまいらせて、念仏申すべきものなり」とあります。人の命には年齢の多少の定めは無いのだから、仏様の教えをいただき、自分が今をどう生きるかが大切なのですよ、と教えてくだ

さっているのだと思います。「私が今ここに生きてい
る不可思議 それ以上の不思議が何処にあるという
のだろう」亡き方は、私たちにいのちの姿を身を賭
して教えてくださっています。「余生」とは余りの人
生ではなく余すことなくいただく人生であると聞
きました。今年一年、皆様のお力をお借りするこ
とが様々出て参りますが、浄敬寺住職としてのお仕
事を精一杯務めさせていただきたいと思えます。何
卒ご協力のほどお願い申し上げます。 合掌

(住 職)



☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎庫裡改修について

慶応三年（江戸時代終わり頃）火災によって焼失してしまっ
た本堂と庫裡。仮本堂兼庫裡として今の建物が建てられたそ
うです。

平成三年、御門徒の総意で本堂が再建され、御本尊様をお移
してから旧お内陣は応急措置をしていたで、中座敷とし

て使わせていただいております。旧内陣の隣は中二階の部屋に
なっていますが、そこは昔、御門徒の方や学校の先生が下宿を
したり、住職の部屋だったり、寺族の生活を支えた大切な場
所だったことを知りました。現在は物置として使っていますが、
老朽化が進み、二十年程前、天井や壁にパネルを張り、畳をフ
ローリングにしたりして対応してきましたが、その後の地震等
で風が吹く度に砂埃でガラガラになる状態です。建物全体が耐
震性が弱く、今後の維持管理を考えても、是非とも改修工事
をさせていただきたく、新年一月中には住職より正式に御依頼状
が発送される予定ですが、何卒ご協力をお願いいたします。

◎ありがとうございました

千晶は十月二十二日～一週間、東京六本木
の俳優座劇場で「検察側の証人」に出演しま
した。柏崎からも観劇に行ってくださいました方
があり、本人はとても感謝しております。



また、十一月二十五日柏崎小学校一五〇周年の朗読劇にも出演
させていただきました。

次の出演予定作品をご案内させていただきます。

* 「紛争地域から生まれた演劇シリーズ」
『Bad Roads — 悪路 —』
一月二十日（土）～二十一日（日）三ステージ
りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館スタジオBにて

* 映画「GINAGINA ぎなぎな」

二月三日～九日 上越市高田世界館にて上映

三日・四日 舞台挨拶登壇予定

* 良寛記念館 朗読会

三月二十四日（日）十四時～

☆二〇二三年後半を振り返って

◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 住職

住職から法話の後、勤行・おときがありました。春のお彼岸から手作りのおときが復活。大事に伝えていきたい仏事が回復したことを大変嬉しく思います。お申し込みは不要ですので、お彼岸の中日にはぜひお参りください。

◎三条別院お取り越し報恩講団体参拝（十一月六日）

久々に組での団参を組み、お参りすることができました。

本山からお鍵役をお迎えした荘厳な入楽法要に遇い、法話は「三河すーぱー絵解き座」の井野優介氏による絵解き法話をお聞きしました。御絵伝に描かれた内容を解説されながら、親鸞聖人の御生涯を問い尋ねること、報恩講を勤めることの大切な意味をお話しいただきました。おときには報恩講弁当をいただくことができ、コロナ前の形におおよそ戻ってお勤まりになったお取り越し報恩講でした。

◎有縁講（十一月十四〜十五日）

今年の有縁講の講師は仏典童話作家の渡邊愛子先生でした。インドの民族衣装のサリーに着替えられ、童話の中から「いのちの重さ」のお話をしてくださいました。仏典童話（ジャータカ）は、インドの民話にもなっているお釈迦様の過去世の物語です。

この度同朋新聞に連載されたお話が「仏典の星ぼし」という絵本になりました。本棚にありますので、ぜひお読みください。（坊守・記）



◎年末法話会（十二月十一日）法話 田澤 一明 師

「苦悩の旧里はすてがたく―『歎異抄』第九章に学ぶ―」

「歎異抄」の第九章は、「歎異抄」の著者と云われる唯円が日頃疑問に感じ、どうしても解決できないことを親鸞聖人に質問するところから始まります。その唯円の質問に対し親鸞聖人は、実に丁寧に応えます。田澤先生は、そのやり取りから、師から弟子にお念仏の教えが伝わる、血脈を感じるといいます。それ故、「歎異抄」は「体温の書」と云われるそうです。

唯円は親鸞聖人に二つの疑問を話します。先ず、お念仏の教えを聞いても以前の様に、感動しないこと。次に、早くお浄土に生まれたいという気持ち起きないことです。そして、そのようなところは、どうしたらよろしいのでしょうか、というのが唯円の質問です。その質問に対し、親鸞聖人は、驚くことに「自分も唯円と同じころである」と答えるのです。

親鸞聖人はお念仏の教えを聞いて躍り上がるような感動がないのは、煩惱が働いているからと説明します。我々は、生まれてこの方これまで、ずっと煩惱の働きの中で生きてきました。それ故、生まれたふるさとを捨てられないように、煩惱のふるさと（旧里）を捨てられないのである、と言います。阿弥陀様は、そんな煩惱の旧里を捨てられない凡夫を、特に憐れんで本願をおこしてください。我々の煩惱の働きが頭かになるのは、阿弥陀様が本願を呼び掛けてくださっているからである。だからこそ、我々の煩惱が頭かになることは、本願によってお浄土に生まれることになるのである。逆に、お念仏の教えを聞いて毎回、躍り上がるような感動をして、早く浄土に生まれたいという人がいたら疑わしいものである、と言います。

『歎異抄』第九章が示す通り、親鸞聖人のご生涯とは、お念仏の教えの中で、自らの煩惱の働きを訊ねるご生涯であったとお教えいただきました。

（当院・記）



☆二〇二四年前半の行事予定（参加お申込み不要）

5

五月二十一日（火）報恩講お引き上げ 午前十時より

*法話 今泉 温資 師（新潟市）

おときはお持ち帰り予定

一月一日 修正会勤行 午前六時より本堂
一月一〜二日 年始参

*真宗門徒の一年は御本尊へのお参りから始めましょう

六月 八日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

六月二十二日（土）仏教文化講演会 於 アルフォーレ

*シンガーソングライター やなせなな氏

（浄土真宗本願寺派教恩寺住職）

一月十三日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

二月 十日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

三月 九日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

三月十六日（土）第十組同朋会報恩講 於産業文化会館

*法話 藤原千佳子氏（金沢教区浄秀寺前坊守）

*参詣については別途ご案内いたします。合唱団として
ご参加いただける方を随時募集しております。

三月十七〜二十三日 春彼岸

お中日二十日（春分の日）午前十時半〜法話勤行

おときはお持ち帰り予定

四月十三日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

五月十一日（土）報恩講お引き上げ準備会 午後一時より

*仏具のお磨き・境内清掃 等にご協力ください



定例法話会：『歎異抄』をよむ会（シーズンⅡ）のご案内

二〇二四年一月からの『歎異抄』を読む会は、最初に戻り、
再出発いたします。この機会にぜひご参加ください。

・基本的に第二土曜日午前九時より

・内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』のテキスト

八月四日（日）夏休みお楽しみ会（子ども会）午後四時〜

八月十三〜十六日（火〜金）お盆

*十三日午前六時〜勤行

七月十四・十五日（日・月）盆参会（盆内）午前十時半〜

*法話・勤行後、両日ともおときは持ち帰りになります

☆真宗門徒の豆知識

浄土真宗の教えについての疑問やお参りしていただき、不思議に思うこと。また、こんな時どうしたらいいの?とご質問をいただくことがあります。皆さんと共有したいと思います。



Q1、『法要のときに僧侶が扇子を落とすのは何故?』

A、扇子は中啓ちゆうけいと言い、落とす理由は合図です

これは、法要にお参りされた方からよくいただく質問です。

法要事に勤行をする僧侶が着座する場所は、内陣ないじん・外陣げじん（*）があり、大きな法要になると大勢の僧侶が順番に出仕します。先に外陣に座する僧侶、その後は内陣に座する僧侶が出仕しています。法要によつては、参詣席からは見えない後堂ごどう（*）に式支配しきしはいという役割で法要全体を執り仕切る方がおられ、出仕や掛役かけやく（*）の僧侶は式支配の方の指示で動いています。法要のはじまりに僧侶が出仕する際は、式支配は中啓を落とした「パタン」という音を聞いて、今案内した僧侶が座についたことを確認しています。

つまり、出仕の際に僧侶が中啓を落とすのは、「座に着きました」ということを伝える合図です。

*内陣ないじんと外陣げじん：真宗の寺院は内陣を浄土の世界に見立てています。法要の際に内陣の畳に座する僧侶は、仏の説法の座に集う菩薩の役割を担い、外陣に座する僧侶は娑婆世界から仏の徳を、

声をもって讃える役割を担っています。

*後堂ごどう：本堂の御本尊の後ろ扉を後門ごこう・そこに続く廊下を後堂と呼びます

*掛役かけやく：法要中に蠟燭の立て替え、御和讃をのせた和讃卓わさんじよくや必要なお道具を運ぶことでもあります。その役目を担う方のことです

Q2、『お盆やお正月のお寺参りやお墓参りはどうするの?』

A、一年のはじまりであるお正月には、御本尊（阿弥陀如来）のいらっしゃる手次寺の本堂にお参りしましょう。お盆にもご先祖を縁としてお集まりになる方々、寺の本堂・阿弥陀様にお参りください。

これは子育ての同士であったママ友からの質問です。「親を送ることになって、うち真宗大谷派なだけでどうしたらいいかなあ」...と尋ねてくれました。歳上の兄がいる先輩ママでしたので、私が育児相談に乗ってもらったことが断然多かったです。お互いに少々歳を重ね、育児相談が仏事相談に変わりました。

真宗門徒であることの欠かせない要素は『念仏申す生活』です。

自分本位にしか生きられない私に、私と世界、私と他者、私と歴史や先祖：等の繋がりを回復させる呼びかけがお念仏です。一年のはじまりやご先祖を縁として、御本尊の前に身を据えていただけたらと思います。

Q3、『お寺でお葬儀はできますか?』

A、勿論です。既にお受けしているご法事との兼ね合いもあり、少々日程調整をお願いすることもありますが、ご希望の形で大事な方をお送りできるように、できる限り協力させていただきます。

年末に浄敬寺の本堂にて葬儀を執行させていただきました。ご遺族の了解をいただきましたのでご紹介させていただきます。



通夜までの間は庫裡にご尊骸を安置し、通夜前に本堂へ

庫裡を控室としてご利用ください

通夜と葬儀を本堂にて執り行い、葬儀の後に献花・最後のお別れをして出棺となります

☆浄敬寺庫裡改修工事について

昨年のお盆後に皆様にお願いのお手紙をさせていただきました庫裡改修工事につきまして、設計士・業者等の打ち合わせ、総代・世話人会議を重ねながら進めております。一月中に詳細が決定し、ご依頼をお送りさせていただくことになりましたので、何卒よろしくお願いたします。御門徒の皆様から気軽に便利に、何より安全に利用していただける庫裡となるよう願っております。二〇二四年の庫裡を使用する行事に関しては、おときの持ち帰り等、若干の変更がありますが、工事の進捗状況もご覧いただけるように、極力例年通りの日程で開催の予定をしております。また、今回に引き続き「浄敬寺だより」特別号を発行し、工事の進捗や記録をお知らせしていきますので、よろしくお願いたします。

☆2023年8月8日 総代・世話人会議
栗原設計士の説明を受けながら現況確認



☆8月29日撮影
床下の現況確認

砂地の上に大きな束石の基礎



7

*工事の概要

浄敬寺庫裡リノベーション工事
施工床面積：約二〇〇㎡（約六〇坪）

*改修工事の主な内容（基本方針）

- ① 古くなり劣化した屋根瓦や外壁を交換し、建物の耐久性を高める
- ② 筋かいを入れた壁を新設し、建物の耐震性を高める
- ③ 床下に鉄筋コンクリート造の基礎を新設し、建物の耐震性・耐久性を高める
- ④ 屋根・外壁・基礎に断熱材を入れ、窓を複層ガラス入り断熱サッシに交換し、建物の断熱性を高める
- ⑤ 今後想定される使い方に合わせた間取りに変更（一部増築）する
- ⑥ 建物の歴史を活かしながら、今後の使い方にあった空間デザインにする
- ⑦ エアコン・手洗い・トイレ・コンセントなど設備関係を充実させる

庫裡改修工事の会議や推進員の方々への説明の折、「この改修工事を機会に、御門徒の一人お一人にとって、浄敬寺が自分たちのお寺であり拠りどころとなる場所なのだ」と考えていただけるようにしていこう」との願いを言葉にしてくださいました方がおられました長い歴史の中で、寺が大事な役割を担ってきたことを再認識しております。



☆当院の仏教名言集 第三十五回

『どっこいしょ（六根清浄）』

お参りに寄せていただきますと、よく耳にする言葉があります。お参りが終わりますと、後からよく「どっこいしょ」と言う声を耳にします。この「どっこいしょ」の語源は「六根清浄」という仏教の言葉です。修験道者は「六根清浄」と称えながら山を登ります。それが「どっこいしょ」と聞こえたことから、何か力を籠める時に「どっこいしょ」と言うのが広まったそうです。六根とは、私たちの感覚器官の視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、心の根本のことです。その六根が清浄になれば、お悟りを開けると言われています。

昨年、イベントで子どもたちと一緒に八海山に登ってきました。登っている時は「もう帰りたい」と思いましたが、登ってみますと澄んだ景色と空気と一体になる感覚があり、実に爽快でした。にわかですが、また山に登ってみたいと思いました。修験道者が山に登るのは、六根清浄の疑似体験も兼ねているのかも知れません。

しかし、そのような体験は老いや病気などもあり、誰にでも体験できることではありません。それだけに「いつでも、どこでも、誰にでも」できるお念仏こそ、真にておわします、と伝えた親鸞聖人の言葉が有難いと思えるのです。

（ 当院 ）



8

☆編集を終えて：

昨年十一月、五年かけて読んできた『歎異抄』が最後に到達し一区切りしました。今後の第二土曜日の定例会の持ち方や内容を悩み、参加してくださる皆さんにおたずねしたところ、『歎異抄』をもう一度はじめてから読んでいくことで同意をいただきました。

思い返すと、『お正信偈をよむ会』という定例会を始めたのが、二〇〇四年の九月でした。途中産休をいただきながらでしたが、二〇二四年の今年は二〇年目を迎えます。既にお浄土におかえりになられた方も含め、たどたどしい私のお話を辛抱強く聞いてくださった皆様に押し出されて今があることを思います。新年からは、あらためて『歎異抄』を大事に読み解いていきたいと思っておりますので、この機会にお誘い合わせてご参加いただけたら幸いです。庫裡改修工事、『歎異抄』をよむ会の再スタート等新たな動きのある年になるかと思えます。よろしくお願いいたします。

（ 晴香 ）

☆連絡先 浄敬寺

〒945-0051

柏崎市東本町 1 - 11 - 35

TEL:0257-22-2481

FAX:0257-22-2140

Mail :

住職 tomi814@kisnet.or.jp

当院 minipapa@kisnet.or.jp

晴香 jyoukyouji222481@gmail.com

